

# 東京農業大学稲花小学校

## 学校だより【2024年3月11日】第200号



### 東日本大震災を忘れずに

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が、三陸沖を震源として発生しました。私たち大人は、この大震災の恐ろしさをリアルタイムで経験し、被害に遭われた方々に思いを寄せてきました。しかし、これは農大稲花小の子どもたちが生まれる前の出来事です。子どもたちを徒に怖がらせることはしたくありませんが、震災の記憶が失われることがないよう、ご家庭でもこの大震災について語り継いでいただけたらと願っています。子どもたちがその成長に合わせて、震災への備えができるようになり、また、悲しい経験をされた方々に寄り添う気持ちを持つようになってほしいものです。

### 塩水選

3月4日(月)、4年生の稲花タイムでは、校長が「塩水選」の授業をしました。塩水選(正確には塩水選種法)は塩水を利用して、胚乳のよく詰まった良質な種もみを選ぶ方法で、1882年(明治15年)に当時は福岡県で農業技術を教えていた東京農業大学初代学長横井時敬博士が考案した技術です。明治時代の初期は海外から新しい技術が次々と伝えられましたが、定着したものばかりではありませんでした。一方、塩水選は日本の稲作農家が求めていた手軽で確実な技術であり、廃れることなく現在でも利用されています。

「苗半作」の言葉を知ることから授業はじまり、真水に沈めた生卵が、塩を加えるにつれてふわりと浮かんでくる様子には、子どもたちも夢中になりました。この技術では、比重計を使う必要がなく、卵の浮き方で、比重を定めるのです。次に、昨年収穫した種もみをこの塩水に入れて混ぜていくと、浮かぶものと沈むものに分かれていきます。

塩と水だけでできる、機械がいらない、誰でもできそう、いい種もみを使うといい苗ができるから……と子どもたちの発言からは、塩水選の良さを理解したことがわかります。生卵はあとで食べられます、という素敵な意見も出ました。

### A2 ミルクが登場

3月4日(月)と5日(火)の2日間、農大稲花小の給食ではいつもの瓶牛乳ではなく、紙パックのA2 ミルクが登場しました。

牛乳に含まれるβカゼインにはA1型とA2型がありますが、A2型のみを含む牛乳「A2 ミルク」では乳糖不耐症による下痢や腹痛などの症状が軽減するという報告があります。牛乳に含まれるカゼインそのものを迅速に検出・検査する方法が、東京農業大学動物科学科庫本高志教授らの研究グループによって世界に先駆けて開発されたことから、信頼性の高いA2 ミルクの供給が可能になりました。

本校では東京農業大学の研究成果を活用したA2 ミルクを給食で提供することにより、A2 ミルクへの理解や研究への興味を深めるだけでなく、乳糖不耐症の子どもたちにも牛乳に親しめるようにすることを目指しました。定期的な提供ではありませんが、この2日間、子どもたちは興味

深そうに、A2 ミルクを味わっていました。なお、A2 ミルクと一般の牛乳とでは、機能性に違いがあるだけで、風味や成分構成などに大きな違いはありません。今回はむしろ、日ごろから瓶牛乳に親しんでいる子どもたちに紙パックで A2 ミルクを提供したことから、まず飲み方からのスタートとなりました。しかし中には、この日に備えてお家で飲み方を練習してきたという子どももいて、保護者のご協力にも感謝したところです。

本校でも牛乳を残す子どもは少なくなく、頭の痛いところですが、A2 ミルクを通して、牛乳を提供する酪農家を応援したり、食べ残しを減らそうとする気持ちが養われたりすることも期待しています。

## 茶道に親しむ その2

3月5日(火)の稲花タイム、農大稲花小にある和室では、先週の2年生に続いて3年生が、茶道を楽しみました。3年生の子どもたちは、昨年も農大茶道部にお世話になって、お茶とお干菓子とを楽しみ、袱紗を扱いました。今年は、3年生一人一人がお茶を点て、友だちに味わってもらいました。なお、農大稲花小にはお茶碗と茶筌が1学級分36個そろっていますので、全員がお茶を点てることができるのです。

茶道部の学生さんによる丁寧で親切な指導で、子どもたちも真剣にお茶を点てていました。心なしか、姿勢も良くなり見事です。お茶碗の中の泡の景色に子どもたちの細かい観察の目が注がれ、自分で納得するまでじっくりと茶筌を使っていました。

授業の終わりには、茶道部部長で東京農業大学造園科学科教授の服部 勉先生から、修了証をいただきました。2年生の時にもいただいているので、2枚目になります。図案のお茶の実の数が昨年の修了証とは微妙にちがっているところも、子どもたちにはうれしかったようです。誰もが大切にしまい、お家に持ち帰りました。

## 法人の記念日

3月6日(水)は法人の記念日として、農大稲花小も休業日でした。これは1891年のこの日に、東京農業大学の前身である学校が、榎本武揚公によって作られたことを記念する日です。その前日、3月5日(火)には校長が1年生に、榎本武揚先生のお話をして法人の日の意味を伝え、その後、1年生全員で世田谷キャンパス散策に出かけました。キャンパス内には榎本武揚公と横井時敬博士の胸像があります。

また、この日の給食もちょっと特別でした。ごはん。金目鯛の江口文味噌焼き(味噌は江口理事長の研究成果によるヤマブシタケ入りのもの)、シーフードサラダ+カムカムドレッシング(カムカムは東京農大の校友がアマゾンで現地の人々の生活向上のために活用を始めたもの)、大根のすまし汁(もちろん大根踊り)、そしてお米で作った稲花ゼリー(農大稲花小の給食にだけ提供される特別なもの)そして A2 ミルク(東京農大の教授の研究によるもの)と、法人の記念日に因んだ献立でした。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏 秋 啓 子